

震災復興に貢献可能な技術シーズ

所属 生物資源科学部

氏名 野中資博

<p>該当する技術名</p>	<p>「コンクリートガラ等無機性廃棄物処理」についての技術提供</p>
<p>技術の概要</p>	<p>東北地方太平洋沖地震で発生した津波等により、被災地では莫大な量のがれきが発生し、それらの処理・処分方法も未だ明確でないために、復旧・復興に着手できない状況が続いています。</p> <p>がれき処理の促進については、被災地での雇用の確保や今後の環境問題を考えると、現地で出来るだけ選別を行い、鉄くずなどの金属系、木材などの木質系、コンクリートガラなど無機材料系に選別することが望まれます。その結果としてリサイクルも進み、鉄くず・アルミくずは再生利用に、廃木材は再生木質ボードや燃料チップになど、廃棄物の縮減と関連産業の振興にも寄与することになります。一方、コンクリートガラ等は汚泥にまみれており、先に述べた金属系や木質系など等のように、洗浄するコストを補える価値はありません。そこで本技術提供では、長年担当者が研究を進めてきた「廃コンクリートの有効活用技術」を提供することにより、植生基盤材、水質浄化ブロック、覆砂材などへの資材化を進めます。費用的にも、汚泥の洗浄が不要で、安全・衛生的かつ簡易的に処理できるコンクリートガラの処理が求められています。</p> <p>本学では、その他に、下水汚泥や生ごみ等の有機性廃棄物に対しても、減容化を可能とする技術について研究を進めています。これらの技術と組み合わせることにより、有機性廃棄物は別途処理が可能となり、廃棄物の総量削減及びコンクリートガラの個別処理に対しても促進されることが期待されます。</p> <div data-bbox="564 1055 1310 1518" data-label="Image"> </div> <p>図 廃コンクリート利用植生基盤材のイメージ</p> <p>※植生基盤材とは ポーラスコンクリート型植栽基盤材は、水環境修復等の植栽基盤材として十分にヨシの流亡を防止可能である。しかし一方で、ヨシが十分に活着した後は、植栽基盤材そのものがヨシの生長を阻害すること、また特に景観等が重視される現在においては、植栽基盤材の形状を維持することは不要となると考えられる。そこで本技術では植栽基盤材について、適当な初期強度を有し、ヨシ等の活着後に崩壊させることが可能である崩壊性植栽基盤材の検討を行った。</p>
<p>担当者 問い合わせ先</p>	<p>氏名： 野中資博 連絡先：TEL 0852-32-6555 連絡先：E-mail nonakat@life.shimane-u.ac.jp</p>
<p>その他 (留意事項)</p>	<p>本技術は作成技術等、知財的な技術であるため、対象被災地の状況等を考慮した上で共同研究先企業と支援内容を検討します。</p>